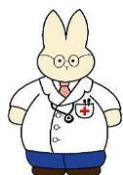


めぐみ在宅地域緩和ケア研究会



NEWS LETTER

2019.9 NO. 145

めぐみ在宅クリニック（在宅療養支援診療所）

〒246-0037 神奈川県横浜市瀬谷区橋戸2-4-3

TEL:045-300-6630 FAX:045-300-6631

苦手意識から関わる自信へ

意思決定支援は大切です。意思決定支援は、大きく3つに分けることができます。

1. 意思表示（エンディングノートや終活、もしバナゲームなど）、
2. 意思決定（各種研修が盛ん）、
3. 意思実現（決めた内容を実現すること）。

今の施策では、市民啓発として、事前に自分の意思を表明するためにエンディングノートを自治体で作成して配布することや、いざという時の意思決定を行うための相談員を養成する研修が盛んです。しかし、肝心の意思決定で決めた内容を実現する担い手を育てて行くまでには至っていないのではと案じています。

看取りに関わると言うことは、容易な事ではありません。家族に迷惑をかけたくない、自分が誰からも必要とされていない、早くお迎えが来ないか、という負の感情を持った人と関わる必要があるからです。

顔が見える関係作りは大切です。ICTを使った情報共有も大切です。しかし、これだけでは、負の感情を持った人に関わり、援助を提供することは困難です。何を学べば、人生の最終段階を迎えた人に、誠実に関わり続けることができるのでしょうか？たとえば聴くことの大切さは、知識として知っている人は少なくありません。研修で聴くことは大切ですか？と聞けば、ほとんどの人が手を挙げます。しかし、「早くお迎えが来ないかな」という言葉を反復できる人は多くありません。わかることと、できることは異なります。

苦手意識から関わる自信につながる援助がわかるだけではなく、関わる事ができること。この課題に永年取り組み、援助をわかりやすい共通の言葉にして、まねしやすい(学びやすい)方法で、魅力的であるような2日間研修を企画してきました。2025年まであと5年3ヶ月。残された時間は多くはありません。しかし、有志とともに始めた人材育成活動（エンドオブライフ・ケア協会2日間研修など）は、その輪を広げつつあります。

もしよろしければ、一緒に学びませんか？それぞれの地域では、学んだ内容を継続学習できる地域学習会も全国47カ所以上で動いています。

小澤竹俊

まもなく14年目を迎えます

2006年10月1日にめぐみ在宅クリニックを開業してまもなく14年目を迎えます。おかげさまで、無事に診療を続けることができました。開業以来、2800人以上の在宅看取り、760人以上を病院での看取りとして、のべ3560人以上の患者さん家族と関わってきました。重装備の在宅緩和ケアを提供できる施設として、24時間365日対応をこれからも充実して提供して参ります。

地域学習会を開催しました

8月31日（土）午後、めぐみ在宅クリニック研修室で、ELC地域学習会を開催しました。ホスピスの現場で学んで来た対人援助を、わかりやすい共通の言葉で、まねしやすい(学びやすい)方法で、魅力的であるための半日体験型研修でした。40名弱の参加がありました。1対1の負の感情を持った模擬患者さんとのロールプレイでは、ふだん経験できない関わり方を学ぶことができました。次回も企画いたします。是非、ご参加ください。

診 療 実 績

	2006- 2018年	2019年 1月-5月	6月	7月	8月	2019年 計	総計
訪問回数	70,753	4,319	913	904	875	7,011	77,764
自宅永眠	2,252	106	24	15	15	160	2,412
施設永眠	349	30	7	5	3	45	394
在宅 (自宅+施設)	2,601	136	31	20	18	205	2,806
病院永眠	711	35	9	5	3	52	763